FAST RETAILING

2026年４月９日

2026年８月期 上期業績
および通期 業績予想

岡﨑 健
株式会社ファーストリテイリング
取締役 グループ上席執行役員 CFO

CFOの岡﨑です。

私から、2026年８月期上期の業績、
および通期の業績予想について、ご説明いたします。

目次

Ⅰ．2026年８月期 上期実績	P. 3	～	P. 21
Ⅱ．2026年８月期 業績予想	P. 22	～	P. 28
Ⅲ．参考資料	P. 29	～	P. 32

【業績開示について】
・国際財務報告基準（IFRS）を適用、本資料上の数字は、すべてIFRSベースで記載しております。
・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
・利益に関しては、特段の記載がない限り、事業利益を示しております。
・各セグメントの構成は、以下の通りです。
国内ユニクロ事業：日本で展開するユニクロ事業が含まれております。
海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれております。
ジーユー事業：日本・海外で展開するジーユー事業が含まれております。
グローバルブランド事業：セオリー事業、プラステ事業、コントワー・デ・コトニエ/プリンセス タム・タム事業が含まれております。
・連結業績には、上記のほか、ファーストリテイリングの業績、連結調整などが含まれております。

【将来予測に関するご注意】
・本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。
実際の業績は、経済環境、市場の需要、価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2026年８月期 上期 実績

大幅な増収増益、業績予想を上回る

・国内ユニクロ事業や海外ユニクロ事業が好調な業績となったことで、売上収益、事業利益ともに、業績予想を上回る

単位：億円	2025年8月期	2026年8月期	
	上期実績	上期実績	前年同期比
売上収益	17,901	**20,552**	+14.8%
売上総利益	9,548	**11,115**	+16.4%
（売上比）	53.3%	**54.1%**	+0.8p
販管費	6,531	**7,246**	+10.9%
（売上比）	36.5%	**35.3%**	▲1.2p
事業利益	3,016	**3,869**	+28.3%
（売上比）	16.9%	**18.8%**	+1.9p
その他収益・費用	25	**137**	+438.4%
営業利益	3,042	**4,006**	+31.7%
（売上比）	17.0%	**19.5%**	+2.5p
金融収益・費用	595	**281**	▲52.7%
税引前中間利益	3,637	**4,288**	+17.9%
（売上比）	20.3%	**20.9%**	+0.6p
親会社の所有者に帰属する中間利益	2,335	**2,792**	+19.6%
（売上比）	13.0%	**13.6%**	+0.6p

2026年８月期上期の連結業績ですが、
売上収益は２兆552億円、前年同期比14.8%増、
事業利益は3,869億円、同28.3%増、
親会社の所有者に帰属する中間利益は2,792億円、同19.6%増と、
大幅な増収増益、業績予想を上回る水準となりました。

次のページで、上期の決算ハイライトをお伝えいたします。

【連結】決算ハイライト

- **ユニクロ事業がすべての地域で増収増益、グループ全体の業績をけん引したことで、上期として、過去最高の業績を達成**
- **冬物商品への依存から脱却し、お客様に新しい価値を提供できる通年商品が商売の土台をつくったことで、国内ユニクロ事業や海外ユニクロ事業を中心に、これまで以上の売上成長を実現**
- **旗艦店を軸とした質の高い出店を継続していることで、グローバルでLifeWearの存在感が一層高まっており、さらなる事業成長に向けた手応えを得る**
- **ジーユー事業は、若干の増収、大幅な増益、事業構造改革の成果が出始める**

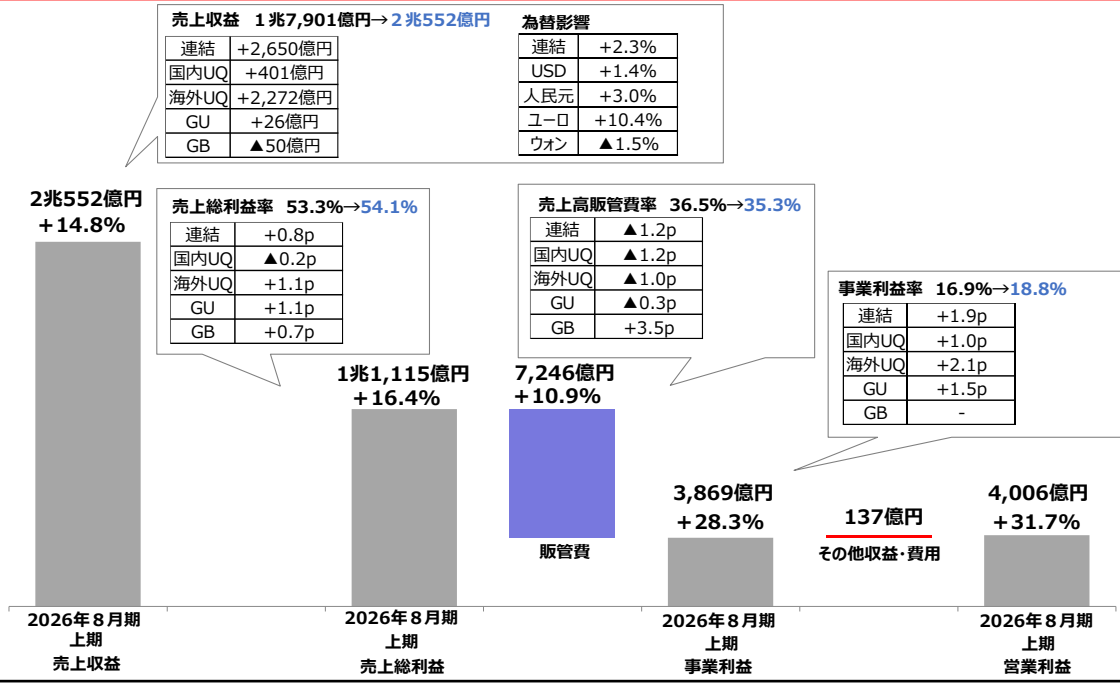
この上期は、ユニクロ事業がすべての地域で増収増益となり、グループ全体の業績をけん引したことで、
上期として、過去最高の業績を達成いたしました。

冬物商品への依存から脱却し、
お客様に新しい価値を提供できる通年商品が商売の土台をつくったことで、
国内ユニクロ事業や海外ユニクロ事業を中心に、これまで以上の売上成長を実現できました。

また、旗艦店を軸とした質の高い出店を継続していることで、
グローバルでLifeWearの存在感が一層高まり、さらなる事業成長に向けた手応えを得ております。

ジーユー事業は、上期は若干の増収、大幅な増益と、事業構造改革の成果が出始めております。

【連結】上期 事業利益



次に、連結損益計算書について、ご説明いたします。
売上収益は２兆552億円、前年同期比2,650億円の増収となりました。
これは主に、海外ユニクロ事業が同2,272億円、国内ユニクロ事業が同401億円の増収となったことによります。

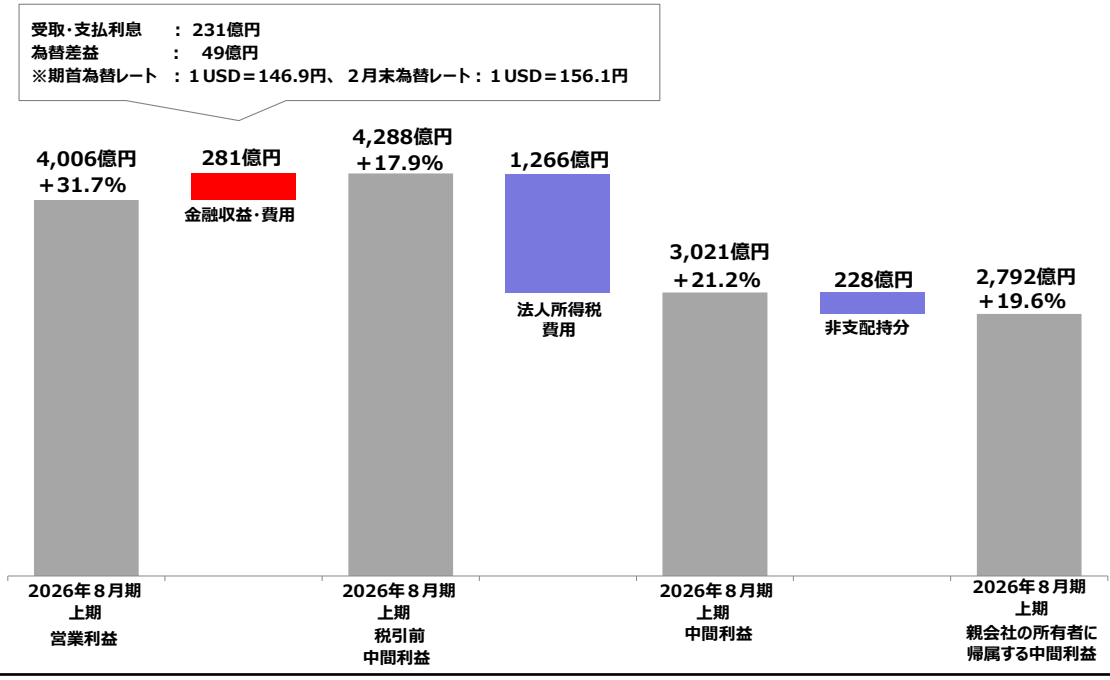
売上総利益率は54.1%と、同0.8ポイント改善いたしました。
これは主に、海外ユニクロ事業で粗利益率が改善したことによります。

売上高販管費比率は35.3%と、同1.2ポイント改善いたしました。
これは主に、販売が好調だったことで、国内ユニクロ事業や海外ユニクロ事業の
販管費比率が改善したことによります。

この結果、事業利益は3,869億円、同28.3%の大幅な増益、
事業利益率は18.8%、同1.9ポイント改善いたしました。

また、主に為替差益を計上したことにより、
その他収益・費用がネットで137億円のプラスとなったことで、
営業利益は4,006億円、同31.7%の大幅な増益、
営業利益率は19.5%、同2.5ポイントの改善となりました。

【連結】上期 親会社の所有者に帰属する中間利益



営業利益以下の項目について、ご説明いたします。
金融収益・費用は、ネットで281億円のプラスとなりました。
これは、利息がネットで231億円のプラスとなったことに加え、
外貨建資産の換算などによる為替差益が49億円発生したことによります。

これらの結果、税引前中間利益は4,288億円、前年同期比17.9%増、
親会社の所有者に帰属する中間利益は2,792億円、同19.6%増となりました。

【セグメント別】上期 実績

単位：億円		2025年8月期	2026年8月期	
		上期実績	上期実績	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上収益	5,415	**5,817**	+7.4%
	事業利益	975	**1,107**	+13.4%
	（売上比）	18.0%	19.0%	+1.0p
	その他収益・費用	0	**7**	+945.1%
	営業利益	976	**1,114**	+14.1%
	（売上比）	18.0%	19.2%	+1.2p
海外ユニクロ事業	売上収益	10,141	**12,413**	+22.4%
	事業利益	1,695	**2,330**	+37.4%
	（売上比）	16.7%	18.8%	+2.1p
	その他収益・費用	▲10	**10**	-
	営業利益	1,685	**2,341**	+38.9%
	（売上比）	16.6%	18.9%	+2.3p
ジーユー事業	売上収益	1,658	**1,684**	+1.6%
	事業利益	131	**157**	+20.1%
	（売上比）	7.9%	9.4%	+1.5p
	その他収益・費用	7	**6**	▲11.7%
	営業利益	139	**164**	+18.3%
	（売上比）	8.4%	9.8%	+1.4p
グローバルブランド事業	売上収益	677	**627**	▲7.5%
	事業利益	11	**▲7**	-
	（売上比）	1.7%	-	-
	その他収益・費用	▲1	**5**	-
	営業利益	9	**▲1**	-
	（売上比）	1.4%	-	-

注：連結業績には上記のほか、ファーストリテイリングの不動産賃貸事業や、各報告セグメントに帰属しない調整額などを含む

セグメント別の業績は、７ページのスライドの通りとなっております。

【国内ユニクロ事業】上期 実績

増収、大幅な増益、業績予想を上回る

・１）通年商品の戦略的な商売の組み立てが奏功し、売上をけん引したこと、
　２）気温が低下したタイミングで冬物商品も好調な販売

・販売が好調だったことに加え、生産性が向上し、販管費比率が改善したことで、大幅な増益

単位：億円	2025年8月期	2026年8月期	
	上期実績	上期実績	前年同期比
売上収益	5,415	**5,817**	+7.4%
売上総利益	2,715	**2,902**	+6.9%
（売上比）	50.1%	**49.9%**	▲0.2p
販管費	1,739	**1,795**	+3.2%
（売上比）	32.1%	**30.9%**	▲1.2p
事業利益	975	**1,107**	+13.4%
（売上比）	18.0%	**19.0%**	+1.0p
その他収益・費用	0	**7**	+945.1%
営業利益	976	**1,114**	+14.1%
（売上比）	18.0%	**19.2%**	+1.2p

まず、国内ユニクロ事業の上期の業績について、ご説明いたします。

売上収益は5,817億円、前年同期比7.4%増、
事業利益は1,107億円、同13.4%増と、増収、大幅な増益となりました。
これは、業績予想を上回る水準です。

通年商品の戦略的な商売の組み立てが奏功し、売上をけん引したことに加え、
気温が低下したタイミングで、冬物商品も好調な販売となりました。

販売が好調だったことに加え、生産性が向上し、
販管費比率が改善したことで、大幅な増益となりました。

【国内ユニクロ事業】売上収益

上期　既存店売上高：＋6.5%（１Q：＋11.0%、２Q：＋1.9%）

・２Q３カ月間は＋1.9%。12月は気温が高く推移し、冬物商品の需要が高まらず、減収。
　１月と２月は、冬物商品が好調な販売となったこと、スウェットやバレルパンツなどの通年商品が売上をけん引したことで、増収
・上期のインバウンド売上高：大幅な増収。売上構成比約10%
・上期のＥＣ売上高：893億円、＋8.4%。売上構成比15.4%
・３月の既存店売上高は＋9.2%。気温と打ち出しがマッチし、通年商品と春物商品の販売が好調

既存店 前年同期比	2026年８月期									
	９月	10月	11月	１Q	12月	１月	２月	２Q	上期	３月
売上高	▲1.0%	＋25.1%	＋7.6%	**＋11.0%**	▲6.6%	＋14.0%	＋4.6%	**＋1.9%**	**＋6.5%**	＋9.2%
客数	▲3.3%	＋16.3%	＋2.8%	**＋5.4%**	▲10.2%	＋7.5%	▲3.4%	**▲3.2%**	**＋1.0%**	＋4.5%
客単価	＋2.4%	＋7.6%	＋4.7%	**＋5.3%**	＋4.0%	＋6.0%	＋8.3%	**＋5.3%**	**＋5.4%**	＋4.5%

上期の既存店売上高は、前年同期比6.5%増となりました。

なお、３月の既存店売上高は、気温と打ち出しがマッチし、
通年商品と春物商品の販売が好調だったことで、
同9.2%の増収となりました。

【国内ユニクロ事業】粗利益率、販管費比率

粗利益率：49.9%、▲0.2ｐ低下

・主に、調達に使用する為替予約レートが円安となり、原価率が上昇

・２Ｑ３カ月間は冬物商品の在庫消化を進めたことで、値引率が上昇し、同▲0.2ｐ低下

粗利益率	2025年８月期 実績	2026年８月期 実績	2026年８月期 前年同期比
上期	50.1%	49.9%	▲0.2p
１Ｑ	52.0%	51.5%	▲0.5p
２Ｑ	48.4%	48.2%	▲0.2p

販管費比率：30.9%、▲1.2ｐ改善

・主に、増収となったことで、人件費比率や賃借料比率が改善

・人件費比率は、店舗業務の効率化を継続的に進めたことで、人時生産性がさらに向上し、改善

国内ユニクロ事業の上期の粗利益率は49.9%と、前年同期比0.2ポイント低下いたしました。
これは、主に、調達に使用する為替予約レートが円安となり、原価率が上昇したことによります。

第２四半期３カ月間の粗利益率は、
冬物商品の在庫消化を進めたことで、値引率が上昇し、
同0.2ポイントの低下となりました。

販管費比率は30.9%と、同1.2ポイント改善いたしました。
これは主に、増収となったことで、人件費比率や賃借料比率が改善したことによります。
人件費比率は、店舗業務の効率化を継続的に進めたことで、
人時生産性がさらに向上し、改善いたしました。

【海外ユニクロ事業】上期 実績

大幅な増収増益、業績予想を上回る

・すべての地域で、事業利益率が改善した結果、海外ユニクロ事業全体の事業利益率は18.8%、＋2.1ｐ改善

・グレーターチャイナは業績予想を上回り、増収、２桁の増益。
韓国、東南アジア・インド・豪州地区、北米、欧州は、業績予想通り２桁の増収増益、高い成長が続く

・グローバルで旗艦店出店を軸としたブランディング戦略が奏功、ボトムスやスウェットなどの通年商品の訴求を強化したことで、冬物商品だけでなく、通年商品も好調な販売

単位：億円	2025年8月期	2026年8月期		
	上期実績	上期実績	前年同期比	
売上収益	10,141	**12,413**	＋22.4%	為替影響を除いた現地通貨ベース：＋約18%
売上総利益	5,600	**6,988**	＋24.8%	移転価格税制による事前の合意で、一部の国でロイヤリティ料率が引き上がり、販管費比率は+0.4p。連結全体の業績には影響なし
（売上比）	55.2%	**56.3%**	＋1.1p	
販管費	3,904	**4,658**	＋19.3%	
（売上比）	38.5%	**37.5%**	▲1.0p	
事業利益	1,695	**2,330**	＋37.4%	為替影響を除いた現地通貨ベース：＋約33%
（売上比）	16.7%	**18.8%**	＋2.1p	
その他収益・費用	▲10	**10**	-	
営業利益	1,685	**2,341**	＋38.9%	為替影響を除いた現地通貨ベース：＋約34%
（売上比）	16.6%	**18.9%**	＋2.3p	

次に、海外ユニクロ事業について、ご説明いたします。

上期の売上収益は、１兆2,413億円、前年同期比22.4%増、
事業利益は2,330億円、同37.4%増と、
業績予想を上回り、大幅な増収増益となりました。
すべての地域で、事業利益率が改善した結果、
海外ユニクロ事業全体の事業利益率は18.8%と、同2.1ポイント改善いたしました。

グレーターチャイナは業績予想を上回り、増収、２桁の増益となりました。
韓国、東南アジア・インド・オーストラリア地区、北米、欧州は、
業績予想通りの２桁の増収増益と、高い成長が続いております。

次のスライドより、地域別の業績を現地通貨ベースでお伝えいたします。

【海外ユニクロ事業】地域別（１）

現地通貨ベース

グレーターチャイナ：増収、２桁の増益

【中国大陸市場】２Ｑ３カ月間、上期ともに増収、２桁増益

・既存店売上高は、12月は気温が高く推移したことで、冬物商品の販売に苦戦、減収となるも、１月、２月合計は増収、２Ｑ３カ月間も増収

・旧正月商戦で気温の高まりに合わせ、ボトムス、スウェット、カジュアルアウターなど春物商品のスタイリング訴求を強化、販売好調

・ＥＣ売上高は、JD.comと協業を開始し、顧客層が拡大したことで２桁増収

・事業利益率は、２Ｑ３カ月間、上期ともに改善

- ✓ **販管費比率：増収となったこと、店舗オペレーションや在庫効率が向上し、人件費比率を中心に改善**
- ✓ **粗利益率　：発注コントロールの強化によって、値引き販売を抑制したことで改善**

【香港市場】増収減益

・旧正月商戦が好調で増収。ロイヤリティ費用の増加を除けば増益

【台湾市場】増収増益

・気温が低下した11月、１月に冬物商品の販売が好調、旧正月商戦も好調

ここからは、地域別の詳細について、ご説明いたします。
グレーターチャイナの上期の業績は、増収、２桁の増益となりました。

中国大陸は、第１四半期に引き続き、
第２四半期３カ月間、上期ともに、増収、２桁の増益となりました。

既存店売上高は、12月は気温が高く推移したことで、冬物商品の販売に苦戦し、減収となりましたが、
１月、２月合計は、増収となり、第２四半期３カ月間でも増収となりました。
これは主に、旧正月商戦で気温の高まりに合わせて、
ボトムスやスウェット、カジュアルアウターなどの春物商品のスタイリング訴求を強化したことで、
販売が好調だったことによります。
また、Ｅコマース売上高は、JD.comと協業を開始し、顧客層が拡大したことで、２桁増収となりました。

事業利益率は、第２四半期３カ月間、上期ともに、改善いたしました。
これは、販管費比率、粗利益率ともに改善したことによります。
販管費比率は、増収となったことに加え、店舗オペレーションや在庫効率が向上したことで、
人件費比率を中心に改善いたしました。
粗利益率は、発注コントロールの強化によって、値引き販売を抑制したことで、改善いたしました。

【海外ユニクロ事業】地域別（２）

現地通貨ベース

韓国：２桁の増収増益

・既存店売上高も２桁増収
・商品情報や着こなしの提案などデジタルを活用した戦略的な情報発信が奏功し、若いお客様を中心にユニクロへの支持が継続的に拡大
・ジャージーバレルレッグパンツや、バギーカーブジーンズなどのボトムスが特に好調な販売
・上期の粗利益率、経費比率はともに改善し、事業利益率が改善

東南アジア・インド・豪州地区：２桁の増収増益

・既存店売上高も２桁増収と好調
　✓ 現地の旅行ニーズに合わせて、ヒートテックやパフテックなど冬物商品の在庫や売場を戦略的に拡充し、増収に寄与
　✓ボトムスや半袖ニット、リネンシャツといった春夏商品の販売も好調
・販管費比率、粗利益率ともに改善
・すべての国で増収増益

韓国の上期の業績は２桁の増収増益となりました。

既存店売上高も、２桁の増収と好調な販売が続いております。
商品情報や着こなしの提案などデジタルを活用した戦略的な情報発信が奏功し、
若いお客様を中心にユニクロへの支持が継続的に拡大しております。

東南アジア・インド・オーストラリア地区の上期の業績は、２桁の増収増益となりました。

既存店売上高も、２桁増収と好調でした。
現地の旅行ニーズに合わせて、ヒートテックインナーやパフテックなど、冬物商品の在庫や売場を
戦略的に拡充したことで、増収に寄与いたしました。
また、ボトムスや半袖ニット、リネンシャツといった春夏商品の販売も好調だったことで、
すべての国で増収増益となりました。

【海外ユニクロ事業】地域別（３）

現地通貨ベース

北米：２桁の増収増益

・米国、カナダともに２桁の増収増益と、好調な業績が継続

【米国】

・既存店売上高は、２桁の増収

・ヒートテックやダウンなどの冬物商品だけでなく、スウェットやジャージーバレルレッグパンツなど、通年商品の商品価値の訴求や着こなしの提案を強化したことで、お客様の需要を幅広く捉えることができ、販売が好調

・事業利益率は改善。１）値引率の改善や一部商品の価格の見直しにより、粗利益率を若干の低下にとどめたこと、２）経費コントロールを強化し、販管費比率が改善したことで、追加関税の影響を吸収

【カナダ】

・通年商品や防寒衣料の販売が好調で、既存店売上高は２桁の増収

・店舗数が前年同期末比で８店舗増加したことに加え、新店の販売が好調だったことで、増収に寄与

・粗利益率が改善し、事業利益率も改善

北米の上期の業績は、米国、カナダともに２桁の増収増益と、好調な業績が継続しております。

米国の上期の既存店売上高は、２桁の増収となりました。

米国の上期の事業利益率は改善いたしました。
これは、値引率の改善や一部商品の価格の見直しにより、粗利益率を若干の低下にとどめたことに加え、
経費コントロールを強化し、販管費比率が改善したことで、追加関税の影響を吸収できたことによります。

【海外ユニクロ事業】地域別（４）

現地通貨ベース

欧州：２桁の増収増益

- **既存店売上高も２桁の増収**
- **スウェットやデニムなど、お客様のニーズを捉えた通年商品が売上をけん引。気温の低下とともにダウン、カシミヤ、ヒートテックカシミヤなどの冬物商品も好調な販売**
- **今期は春物の立ち上げを早期に行ったことが奏功し、カジュアルアウターや春ニットなどの販売も好調で、増収に寄与**
- **事業利益率は、粗利益率が改善したことで、上昇。１）販売動向に合わせた機動的な発注調整、２）輸送手段の多様化により、空輸の使用頻度が低下したことで、原価率が改善したため**
- **販管費比率は前年並み。昨年下期に新設した自動化倉庫の立ち上げにより、一時的に複数体制で運営しているため、物流費比率が上昇した一方、販売好調に伴い賃借料比率が改善したことによる**

欧州の上期の業績は、２桁の増収増益、
既存店売上高も２桁の増収と、引き続き好調な販売となりました。

上期の事業利益率は、粗利益率が改善したことで、上昇いたしました。
これは、販売動向に合わせた機動的な発注調整や、輸送手段の多様化により、
空輸の使用頻度が低下したことで、原価率が改善したためです。

北米、欧州事業の詳細については、後ほど塚越と守川よりご説明いたします。

【ユニクロ事業】グローバルで商売の組み立てに進歩

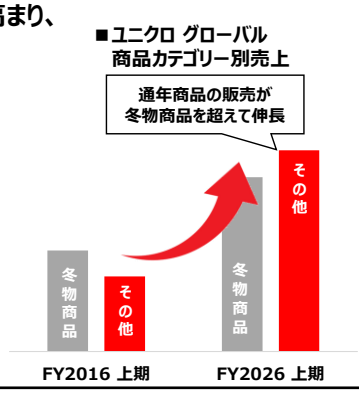
・防寒衣料だけに頼らず、通年商品の販売が好調だったことで、
気温に左右されにくい構造ができつつある

・長年発売してきたコア商品を、今のトレンドのシルエットや素材に
アップデートした商品の販売が好調

・ボリュームのあるシルエットのジャージーバレルレッグパンツ、
バギーカーブジーンズ、スウェットワイドパンツ、短丈のシャツ、
ブルゾンなどの商品がグローバルでお客様の需要を捉えた

・上期の通年商品の売上構成比が高まり、
商品の柱の多様化が進む
１）商品開発力の向上、
２）魅力的なスタイリング、
商品の特徴を、店舗・ＥＣで
お客様へ効果的にお伝えしたこと、
３）生産、マーケティング、販売が
連動した計画を、年間で
組み立てることで、計画の精度が
向上しつつある

■ユニクロ グローバル
商品カテゴリー別売上



ユニクロ事業の上期の商売が、グローバルに好調だった要因の一つに、
商売の組み立てが進歩した点が挙げられます。
防寒衣料だけに頼らず、通年商品の販売が好調だったことで、
気温に左右されにくい構造ができつつあります。

ユニクロが長年発売してきたコア商品を、
今のトレンドのシルエットや素材にアップデートした商品の販売が好調でした。
具体的には、ボリュームのあるシルエットが特徴のジャージーバレルレッグパンツ、
バギーカーブジーンズ、スウェットワイドパンツ、
これらに合わせる短丈のオックスフォードシャツ、ジップアップブルゾンといった商品がグローバルで
お客様の需要を捉えることができました。
過去に比べて、上期における通年商品の売上構成比が高まり、商品の柱の多様化が進みました。

これは、お客様のニーズを捉えた商品開発力が向上しただけでなく、
魅力的なスタイリングや商品の特徴を、店舗やＥコマースで、お客様へ効果的にお伝えしたためです。
また、生産、マーケティング、販売が連動した計画を、年間で組み立てることで、
計画の精度が向上しつつあるためです。

【ジーユー事業】上期 実績

若干の増収、大幅な増益、業績予想通り

・グローバルでソフトシアークルーネックT、ギャザーバレエスニーカーなどマストレンドを捉えた商品が、若者に支持され、販売が好調。台湾と香港の新店の売上が好調に推移したことで、増収

・粗利益率、販管費比率が改善し、事業利益率は改善。売れ筋商品への品番数の絞り込みや、数量計画の精度向上など、オペレーションの改革を進めたことによる

・改革は着実に進捗しているが、売上の拡大は期待に届いていない。下期からは、マストレンドを捉えたヒット商品の開発をさらに強化し、より高い売上成長を実現していく計画

単位：億円	2025年8月期	2026年8月期	
	上期実績	上期実績	前年同期比
売上収益	1,658	**1,684**	+1.6%
売上総利益	801	**832**	+4.0%
（売上比）	48.3%	**49.4%**	+1.1p
販管費	669	**675**	+0.8%
（売上比）	40.4%	**40.1%**	▲0.3p
事業利益	131	**157**	+20.1%
（売上比）	7.9%	**9.4%**	+1.5p
その他収益・費用	7	**6**	▲11.7%
営業利益	139	**164**	+18.3%
（売上比）	8.4%	**9.8%**	+1.4p

次に、ジーユー事業ですが、売上収益は1,684億円、前年同期比1.6%増、
事業利益は157億円、同20.1%増と、若干の増収、大幅な増益となりました。
これはほぼ業績予想通りの水準です。

上期は、主に、グローバルでソフトシアークルーネックT、ギャザーバレエスニーカーなどの
マストレンドを捉えた商品が、
若者に支持され、販売が好調だったことに加え、
台湾と香港の新店の売上が好調に推移したことで、増収となりました。

利益面では、粗利益率、販管費比率が改善したことで、事業利益率は改善いたしました。
これは、売れ筋商品への品番数の絞り込みや、数量計画の精度向上など、
オペレーションの改革を進めていることによります。

オペレーションの改革は着実に進捗しておりますが、売上の拡大は期待に届いていないため、
下期からは、マストレンドを捉えたヒット商品の開発をさらに強化し、
より高い売上成長を実現していく計画です。

【グローバルブランド事業】上期 実績

減収、赤字、業績予想通り

・セオリー事業が販売に苦戦したことで、グローバルブランド事業全体で減収、赤字

【セオリー事業】減収、若干の赤字

・米国事業が減収、赤字。百貨店の業績不振により、卸売り販売が苦戦、前年３月に、米国ＥＣアウトレットサイト閉鎖で減収。
卸売先の百貨店が破産を申請したことにより、貸倒損失を計上、赤字

・日本事業、アジア事業の業績は、ほぼ前年並み

【プラステ事業】増収、２桁増益

・レーヨンブレンド、プレシャスニットメルトン群といった素材の商品を中心にメンズ部門の販売が好調、ＥＣ売上高が大幅な増収

・販管費比率、粗利益率ともに改善、事業利益率も改善

【CDC/PTT事業】減収、赤字幅は縮小

・構造改革に伴い、店舗網を都心に集約したことで
２月末総店舗数が、前年同期の141店舗から78店舗と、
ほぼ半減したことで減収

・不採算店舗の削減や、経費構造の改革により、
販管費比率が改善したことで、赤字幅は縮小

単位：億円	2025年8月期	2026年8月期	
	上期実績	上期実績	前年同期比
売上収益	677	**627**	▲7.5%
事業利益	11	**▲7**	-
（売上比）	1.7%	-	-
その他収益・費用	▲1	**5**	-
営業利益	9	**▲1**	-
（売上比）	1.4%	-	-

次に、グローバルブランド事業は、業績予想通り、
売上収益は627億円、前年同期比7.5%減、７億円の事業赤字となりました。
これは主に、セオリー事業が販売に苦戦したことによります。

セオリー事業は減収、若干の赤字となりました。
これは主に、米国事業が、減収、赤字となったことによります。

米国事業は、百貨店の業績不振により、卸売り販売が苦戦したことに加え、
前年３月に、米国のＥコマースアウトレットサイトを閉鎖したことで減収となりました。
また、卸売先の百貨店が破産を申請したことにより、貸倒損失を計上したことで、赤字となりました。

【連結】2026年２月末 B/S

単位：億円	2025年２月末	2025年８月末	**2026年２月末**	前年同期末比
資産合計	37,291	38,593	**42,990**	＋5,699
流動資産	23,547	25,278	**29,711**	＋6,164
非流動資産	13,743	13,315	**13,278**	▲465
負債合計	14,704	15,318	**15,905**	＋1,201
資本合計	22,587	23,275	**27,084**	＋4,497

次に、2026年２月末のバランスシートについてご説明いたします。

資産合計は４兆2,990億円、前年同期末比5,699億円増加、
負債合計は１兆5,905億円、同1,201億円増加、
資本合計は２兆7,084億円、同4,497億円増加いたしました。

資産、負債の主な増減は、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント（前年同期末比）

資産合計：＋5,699億円（３兆7,291億円→４兆2,990億円）

・現金及び現金同等物・その他金融資産：＋3,802億円（２兆618億円⇒２兆4,420億円）
主に、営業キャッシュ・フローの増加による

・有形固定資産・使用権資産：＋1,245億円（7,396億円 → 8,641億円）
主に、グローバルで新規出店や自動化倉庫への投資を進めていることや、スペインのグランビア店の不動産を取得したことによる

・棚卸資産：＋416億円（4,594億円 → 5,011億円）
✓ 海外UQ：＋239億円。欧米や東南アジアを中心に、事業の拡大に伴い、棚卸資産が増加
グレーターチャイナは、機動的な発注進捗の管理により、在庫効率が改善し、棚卸資産が減少
✓ 国内UQ：＋156億円。棚卸資産は増加も、適正な範囲内
✓ GU：＋32億円、グローバルブランド：▲11億円

負債合計：＋1,201億円（１兆4,704億円→１兆5,905億円）

・リース負債：＋663億円（4,818億円→5,482億円）
出店や自動化倉庫への積極的な投資を進めているため

・買掛金：＋758億円（3,435億円→4,194億円）
好調な販売に対応するため、仕入が増加

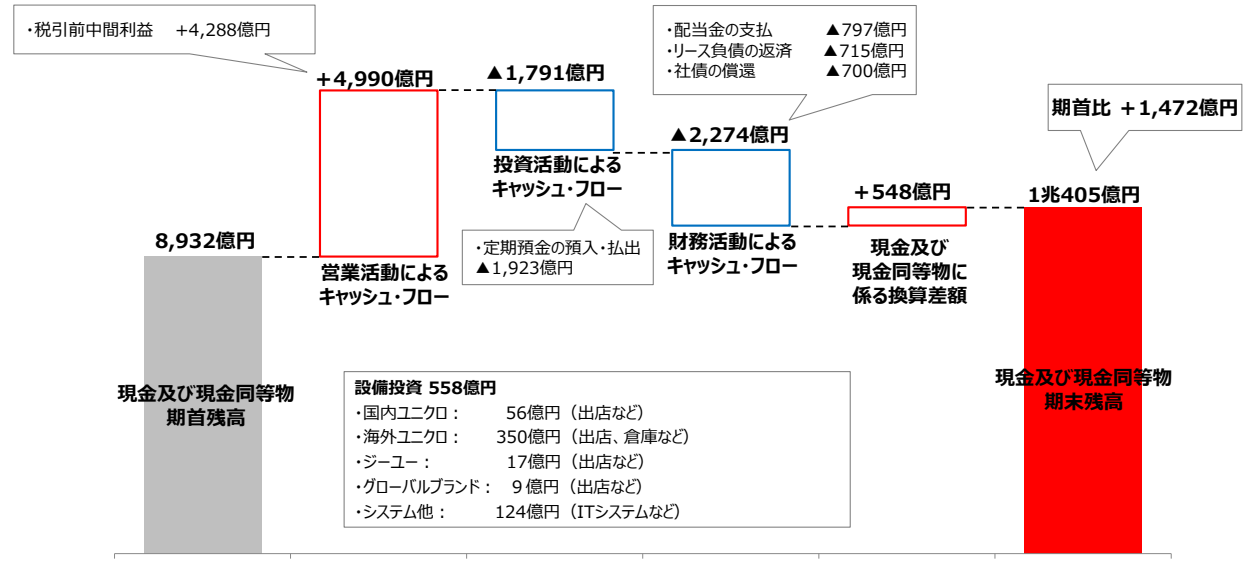
資産合計が前年同期末比5,699億円増加した要因をご説明いたします。

現金及び現金同等物とその他金融資産を合わせた流動性の高い資産は、
主に、営業キャッシュ・フローが増加したことで、同3,802億円増加いたしました。

有形固定資産と使用権資産は、合わせて1,245億円増加いたしました。
これは主に、グローバルで新規出店や自動化倉庫への投資を進めていることに加え、
スペインのグランビア店の不動産を取得したことによります。

棚卸資産は、同416億円増加いたしました。
これは主に、海外ユニクロ事業で同239億円、国内ユニクロ事業で同156億円、それぞれ増加したことによります。
海外ユニクロ事業は、欧米や東南アジアを中心に、事業の拡大に伴い、棚卸資産が増加いたしました。
グレーターチャイナは、機動的な発注進捗の管理により、在庫効率が改善していることで、
棚卸資産が減少いたしました。
国内ユニクロ事業の棚卸資産は増加いたしましたが、適正な範囲内です。

【連結】上期 キャッシュ・フロー



※IFRS16号の適用により、営業活動によるキャッシュ・フローの収入が約650億円増加、財務活動によるキャッシュ・フローの支出が同額程度増加。
この会計基準の変更による最終的なキャッシュ・フローへの影響はなし。

キャッシュフローは、21ページのスライドの通りとなっております。

【連結】2026年８月期 通期業績予想

売上収益で1,000億円、事業利益で400億円の増額修正

・１）上期の業績が上振れ、２）下期の業績も足元の販売状況を踏まえ、増額修正、
　３）連結決算取込に使用する下期の為替レートの前提を見直し、直近の円安の趨勢を反映
・業績予想は、一部の国での輸送費の上昇など、現時点で想定される中東情勢を踏まえた影響を見込む。今期はすでに商品の生産が進行、輸送の対策を講じていることで、生産や物流面では、大きな影響にはならない
・今回想定している事業環境に大きな変化があった場合は、適宜、業績予想の見直しを行う

単位：億円	2025年８月期	2026年８月期		2026年８月期		2026年８月期
	通期実績	直近予想（1/8時点）	前期比	通期予想（4/9時点）	前期比	上期実績
売上収益	34,005	38,000	+11.7%	**39,000**	**+14.7%**	20,552
事業利益	5,511	6,500	+17.9%	**6,900**	**+25.2%**	3,869
（売上比）	16.2%	17.1%	+0.9p	**17.7%**	**+1.5p**	18.8%
その他収益・費用	131	-	-	**100**	**▲23.7%**	137
営業利益	5,642	6,500	+15.2%	**7,000**	**+24.1%**	4,006
（売上比）	16.6%	17.1%	+0.5p	**17.9%**	**+1.3p**	19.5%
金融収益・費用	863	400	▲53.7%	**400**	**▲53.7%**	281
税引前利益	6,505	6,900	+6.1%	**7,400**	**+13.7%**	4,288
（売上比）	19.1%	18.2%	▲0.9p	**19.0%**	**▲0.1p**	20.9%
親会社の所有者に帰属する当期利益	4,330	4,500	+3.9%	**4,800**	**+10.9%**	2,792
（売上比）	12.7%	11.8%	▲0.9p	**12.3%**	**▲0.4p**	13.6%

次に、2026年８月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

通期の売上収益は３兆9,000億円、前期比14.7%増、
事業利益は6,900億円、同25.2%増、
営業利益は7,000億円、同24.1%増と、過去最高の業績を見込んでおります。

直近の業績予想に対し、売上収益で1,000億円、事業利益で400億円、
営業利益で500億円の増額修正を行っております。

これは、上期の業績が上振れしたことに加え、
下期の業績も、足元の販売状況を踏まえ、増額修正したこと、
連結決算取込に使用する下期の為替レートの前提を見直し、直近の円安の趨勢を
反映したことによります。

金融収益・費用は直近予想通り、400億円のプラスを見込んでおります。

これらの結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は、4,800億円、同10.9%増を見込んでおります。

なお、この業績予想は、一部の国での輸送費の上昇など、
現時点で想定される中東情勢を踏まえた影響を見込んでおります。
今期は、すでに商品の生産が進行していることや、輸送の対策を講じていることで、
生産や物流面では、大きな影響にはならないと考えております。

ただし、東南アジアの一部の国では、エネルギー供給不安から、外出の抑制や、
ショッピングセンターの時短営業などを実施しており、今後のこれらの影響を注視していきます。
これらを含め、今回想定している事業環境に大きな変化があった場合は、適宜、業績予想の見直しを行っていきます。

2026年8月期 下期事業方針

1．価値を創る商売の進化

商品、マーケティング、店舗、ＥＣのすべてにおいて、お客様視点で、圧倒的に差別化できる新しい価値を創造。
そのための業務プロセスや働き方の変革を推進

2．総在庫削減と欠品撲滅の両立

グローバル視点で素材や生産キャパシティの最適化。各事業で、SKU単位での発注精度の向上とSTOP＆GOの徹底

3．個店経営の徹底

地域に根差した商売を追求し、お客様のニーズに合った店舗運営で、高いお客様満足と生産性を実現

4．店舗網の質的進化

すべての店舗がブランドのメディアであり、生活のインフラとなる。
そのために、スクラップ＆ビルドの実施と旗艦店や大型店を中心とした質の高い出店を継続

5．グローバル経営体制と人材投資の強化

各地域で人材の採用・育成を強化すると同時に、グローバルヘッドクオーターの各機能部門の水準を高め、
現場とヘッドクオーターが常に連携しながら、課題解決する働き方を強化

23

LifeWearの需要が世界中で急速に高まっているなか、
顧客創造の好循環を持続的に拡大していくために、
下期も、リスクを取って積極的に商売を行っていくとともに、事業基盤を革新、進化させ続けていきます。

下期も引き続き、５本柱として、

１）価値を創る商売の進化、２）総在庫削減と欠品撲滅の両立
３）個店経営の徹底、４）店舗網の質的進化
５）グローバル経営体制と人材投資の強化

を重点的に取り組んでいきます。

2026年８月期 各事業の通期業績予想（１）

現地通貨ベース

海外ユニクロ事業：下期、通期ともに、２桁の増収増益を見込む

【グレーターチャイナ】

・下期は増収増益、通期は増収、２桁の増益を見込む

✓ 中国大陸：事業構造改革が着実に進捗し、下期も増収増益を見込む
通期は、増収、２桁増益を達成できる見込み
業績の回復に伴い、粗利益率、販管費比率が改善し、通期の事業利益率は改善する予想

✓ 香港、台湾：通期は、それぞれ増収増益を見込む

【韓国】

・下期、通期ともに、２桁の増収増益となる予想。通期の事業利益率は、改善

【東南アジア・インド・豪州地区】

・下期、通期ともに、２桁の増収増益を見込む。通期の事業利益率は、改善

次に、セグメント別の通期の業績予想について、ご説明いたします。
まず、海外ユニクロ事業ですが、すべて現地通貨ベースでご説明いたします。

海外ユニクロ事業は、下期、通期ともに、２桁の増収増益を見込んでおります。

地域別では、グレーターチャイナの下期は増収増益、通期は増収、２桁の増益を見込んでおります。

中国大陸は、事業構造改革が着実に進捗しているため、下期も増収増益を見込んでおります。
この結果、通期は、増収、２桁増益を達成できる見込みです。
業績の回復に伴い、粗利益率、販管費比率が改善し、通期の事業利益率は改善する予想です。

韓国、東南アジア・インド・オーストラリア地区はそれぞれ、下期、通期ともに、
２桁の増収増益となる予想です。
通期の事業利益率は、改善を見込んでおります。

2026年８月期 各事業の通期業績予想（２）

現地通貨ベース

海外ユニクロ事業：下期、通期ともに、２桁の増収増益を見込む

【北米、欧州】：上期と同水準の事業拡大が継続し、下期、通期ともに、２桁の増収増益を見込む
両地域ともに、通期の事業利益率は改善する見込み

【北米】

・通期の粗利益率は、ほぼ前年並みの水準を見込む

✓ カナダ事業の粗利益率が、値引き販売の抑制により、改善することに加え、
米国事業の粗利益率も、関税影響を一定程度吸収し、若干の低下にとどまることを見込む

・販管費比率は、業務オペレーションの効率化により、改善する予想

【欧州】

・通期の粗利益率は、空輸の使用頻度の低下や値引率の改善により、上昇する見込み

・通期の販管費比率は改善を見込む

✓ 販売好調に伴い、賃借料比率が改善することに加え、下期から複数倉庫の運用を解消したことで、
物流費比率が低下することを見込む

北米、欧州はそれぞれ、上期と同水準の事業拡大が継続し、
下期、通期ともに、２桁の増収増益を見込んでおります。
両地域ともに、通期の事業利益率は改善する見込みです。

北米の通期の粗利益率は、ほぼ前年並みの水準を見込んでおります。
これは、カナダ事業の粗利益率が、値引き販売の抑制により、改善することに加え、
米国事業の粗利益率も、関税影響を一定程度吸収し、
若干の低下にとどまることを見込んでいるためです。
販管費比率は、業務オペレーションの効率化により、改善する予想です。

欧州の通期の粗利益率は、空輸の使用頻度の低下や値引率の改善により、上昇する見込みです。
通期の販管費比率は改善することを見込んでおります。
これは、販売好調に伴い、賃借料比率が改善することに加え、
下期から複数倉庫の運用を解消したことで、
物流費比率が低下することを見込んでいるためです。

2026年８月期 各事業の通期業績予想（３）

国内ユニクロ事業：下期は増収、事業利益は前年並み、通期は増収増益の予想

・下期は増収、既存店売上高は約５%増を見込む
・下期の事業利益は前年並みの見込み
　✓ 販管費比率は、生産性の向上により、人件費比率を中心に、若干の改善を見込む
　✓ 粗利益率は、為替の影響による原価率の上昇で、若干の低下を予想
・通期は増収増益となる予想。事業利益率は前年と同水準を見込む

ジーユー事業：下期、通期ともに増収、２桁の増益を見込む

・３月はソフトシアークルーネックTシャツやバレエスニーカーなどの春物商品が好調な販売、立ち上がりは順調
・引き続き、マストレンド商品への品番数の絞り込み、販売計画の精緻化など、
　オペレーションの改善を図っていくことで、粗利益率、販管費比率が改善し、
　下期、通期ともに事業利益率が改善することを見込む

次に、国内ユニクロ事業ですが、下期は増収、既存店売上高は約５%増を見込んでおります。

下期の事業利益は前年並みの見込みです。
これは、販管費比率は、生産性の向上により、人件費比率を中心に、
若干の改善を見込んでいる一方で、
粗利益率は、為替の影響による原価率の上昇で、若干の低下を予想しているためです。

通期は増収増益となる予想です。
事業利益率は前年と同水準を見込んでおります。

ジーユー事業は、下期、通期ともに増収、２桁の増益を見込んでおります。
３月はソフトシアークルーネックTシャツやバレエスニーカーなどの春物商品が好調な販売となっており、
立ち上がりは順調です。

引き続き、マストレンド商品への品番数の絞り込み、販売計画の精緻化など、
オペレーションの改善を図っていくことで、粗利益率、販管費比率が改善し、
下期、通期ともに事業利益率が改善することを見込んでおります。

2026年８月期 各事業の通期業績予想（４）

グローバルブランド事業：通期は若干減収、事業利益は増益を見込む

・下期は増収増益を見込む

【セオリー事業】

・下期は増収増益と業績は回復することを見込むが、通期では、減収減益となる予想

・下期は、強みであるテーラリングと素材を活かしながら、コア商品やスタイリングを今の時代のニーズに合ったものに刷新し、顧客層の拡大を図る予定

【プラステ事業】

・下期、通期ともに増収増益を見込む

・商品のデザイン、素材、色味に磨きをかけ、PLSTらしいマストレンド商品を提供し、さらなる事業拡大につなげる

【コントワー・デ・コトニエ/プリンセス タム・タム事業】

・下期は増収、事業利益はブレークイーブンとなる見込み

・通期では、減収、赤字幅は縮小する予想

・事業構造改革は着実に進捗、この下期から利益を出せる体制に転換していける見込み

グローバルブランド事業は、下期は増収増益、通期は若干の減収、事業利益は増益となる見込みです。

セオリー事業は、下期は増収増益と業績は回復することを見込んでおりますが、
通期では、減収減益となる予想です。

2026年８月期 配当金

中間配当金320円を予定、年間配当金640円を見込む

	１株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2024年８月期	175円	225円	400円
2025年８月期	240円	260円	500円
2026年８月期（1/8 予想）	270円	270円	540円
2026年８月期（4/9 修正予想）※	320円	320円	640円
前期比	+80円	+60円	+140円

※ 2026年８月期の中間配当金は、４月９日開催の取締役会で決議しております。
なお、業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、配当金を変更することがあります。

最後に、配当金について、ご説明いたします。

本日の取締役会にて、中間配当金を、１株当たり320円と決議いたしました。
これは、前期に対し、80円の増配となります。

期末配当金についても、１株当たり320円を予想しております。
この結果、年間配当金は、640円を見込んでおります。

これは、前期の年間配当金１株当たり500円に対し、140円の増配となる見込みです。
また、１月に発表した１株当たり540円から、100円の増額となります。

以上で、私からの説明を終わります。
ありがとうございました。

＜参考資料＞出退店 実績と予想（１）

単位：店舗	2025年８月期	2026年８月期（2025/９～2026/２）実績				2026年８月期（2025/９～2026/８）予想			
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業	**2,519**	**55**	**62**	**▲7**	**2,512**	**120**	**120**	**0**	**2,519**
国内ユニクロ事業 ※	**794**	**8**	**18**	**▲10**	**784**	**20**	**20**	**0**	**794**
直営店	784	8	18	▲10	**774**	-	-	-	**-**
FC	10	0	0	0	**10**	-	-	-	**-**
海外ユニクロ事業	**1,725**	**47**	**44**	**+3**	**1,728**	**100**	**100**	**0**	**1,725**
グレーターチャイナ	1,008	12	31	▲19	**989**	25	-	-	-
中国大陸	902	10	31	▲21	**881**	-	-	-	**-**
香港	35	0	0	0	**35**	-	-	-	**-**
台湾	71	2	0	+2	**73**	-	-	-	**-**
韓国	132	6	8	▲2	**130**	10	-	-	**-**
東南アジア・インド・豪州	397	11	3	+8	**405**	25	-	-	**-**
シンガポール	29	0	0	0	**29**	-	-	-	**-**
マレーシア	59	1	0	+1	**60**	-	-	-	**-**
タイ	70	2	0	+2	**72**	-	-	-	**-**
フィリピン	77	5	1	+4	**81**	-	-	-	**-**
インドネシア	77	1	2	▲1	**76**	-	-	-	**-**
オーストラリア	40	0	0	0	**40**	-	-	-	**-**
ベトナム	29	1	0	+1	**30**	-	-	-	**-**
インド	16	1	0	+1	**17**	-	-	-	**-**

（次のページへ続く）

注） ミーナ事業、ポップアップストアの店舗は含まない
※ フランチャイズ店を含む

＜参考資料＞出退店 実績と予想（２）

単位：店舗	2025年８月期	2026年８月期（2025/９～2026/２）実績				2026年８月期（2025/９～2026/８）予想			
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
海外ユニクロ事業									
北米	106	9	2	+7	**113**	25	-	-	**-**
米国	75	4	2	+2	**77**	-	-	-	**-**
カナダ	31	5	0	+5	**36**	-	-	-	**-**
欧州	82	9	0	+9	**91**	15	-	-	**-**
英国	21	2	0	+2	**23**	-	-	-	**-**
フランス	27	2	0	+2	**29**	-	-	-	**-**
ドイツ	9	3	0	+3	**12**	-	-	-	**-**
ベルギー	2	1	0	+1	**3**	-	-	-	**-**
スペイン	7	0	0	0	**7**	-	-	-	**-**
スウェーデン	3	0	0	0	**3**	-	-	-	**-**
オランダ	5	0	0	0	**5**	-	-	-	**-**
デンマーク	2	0	0	0	**2**	-	-	-	**-**
イタリア	4	0	0	0	**4**	-	-	-	**-**
ルクセンブルク	1	0	0	0	**1**	-	-	-	**-**
ポーランド	1	1	0	+1	**2**	-	-	-	**-**
ジーユー事業	**486**	**9**	**18**	**▲9**	**477**	**17**	**19**	**▲2**	**484**
グローバルブランド事業	**565**	**13**	**35**	**▲22**	**543**	**24**	**41**	**▲17**	**548**
セオリー事業 ※	426	8	11	▲3	**423**	-	-	-	**-**
プラステ事業	41	4	3	+1	**42**	-	-	-	**-**
CDC/PTT事業 ※	98	1	21	▲20	**78**	-	-	-	**-**
総　合　計	**3,570**	**77**	**115**	**▲38**	**3,532**	**161**	**180**	**▲19**	**3,551**

注） ミーナ事業、ポップアップストアの店舗は含まない
※ フランチャイズ店を含む

＜参考資料＞為替レート

＜連結決算取込 為替レート＞

単位：円	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2025年8月期 上期（6カ月平均）実績	150.8	161.9	193.9	21.0	10.9
2026年8月期 上期（6カ月平均）実績	152.8	178.7	205.0	21.6	10.7
2025年8月期 通期（12カ月平均）実績	148.7	162.9	193.9	20.6	10.6
2026年8月期 下期（6カ月平均）予想	155.8	182.8	209.8	22.2	10.7
2026年8月期 通期（12カ月平均）予想	154.3	180.7	207.4	21.9	10.7

注 2026年８月期 通期予想レートは、上期実績レートと下期予想レートの平均値

＜バランスシート適用 為替レート＞

単位：円	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2025年8月期 上期末為替レート 実績	149.6	155.5	188.6	20.5	10.3
2026年8月期 上期末為替レート 実績	156.1	184.4	210.5	22.8	10.8
2025年8月期 期末為替レート 実績	146.9	171.4	198.5	20.6	10.6
2026年8月期 期末為替レート 予想	146.9	171.4	198.5	20.6	10.6

＜参考資料＞設備投資･減価償却費

＜設備投資･減価償却費＞

単位：億円	設備投資						減価償却費
	国内ユニクロ	海外ユニクロ	ジーユー	グローバルブランド	システム他	合計	
2025年8月期 上期実績（6カ月累計）	66	862	31	9	149	1,119	1,079
2026年8月期 上期実績（6カ月累計）	56	350	17	9	124	558	1,153
2025年8月期 通期実績（12カ月累計）	151	1,200	77	14	274	1,719	2,164
2026年8月期 通期予想（12カ月累計）	75	824	27	11	287	1,226	2,324